

「新しい東北」官民連携推進協議会

**令和2年度
岩手県意見交換会(第2回)**

事務局提出資料

「新しい東北」官民連携推進協議会事務局

2020年9月29日

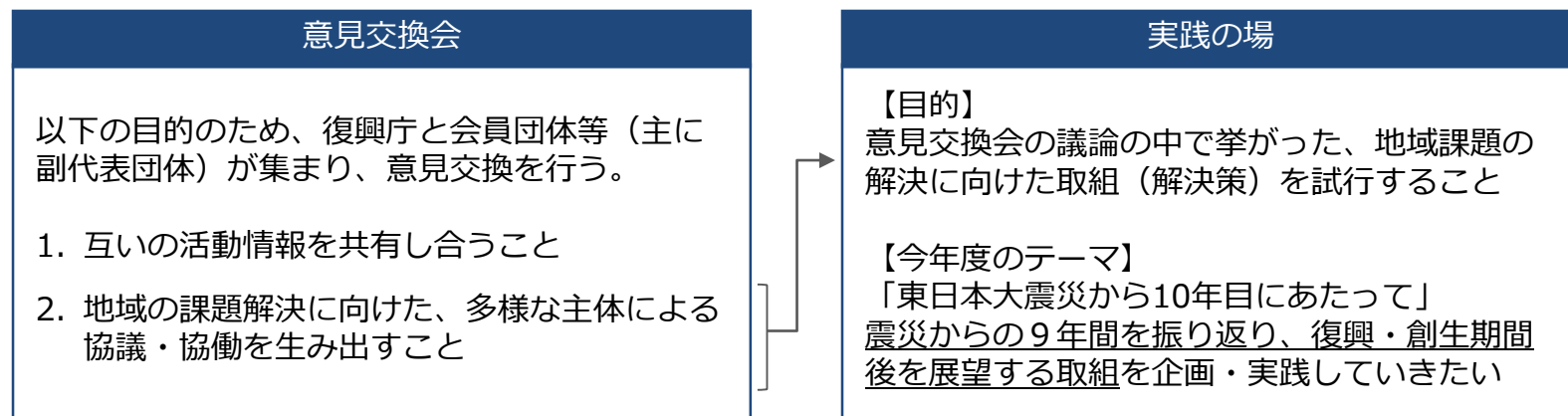
● 目次

1. 意見交換会の概要
2. 第1回意見交換会・事後調整の結果
3. 登壇者候補とのヒアリング結果
4. 第2回意見交換会での検討事項
 - (1) 方向性①における詳細検討
 - (2) 方向性②のアイデア・検討
 - (3) 企画の方向性
 - (4) 当日プログラム：全体
 - (5) 開催場所の候補
 - (6) 開催形式
 - (7) 開催後の継続・発展の案
 - (8) 今後の協議会への期待・要望
5. 今後のスケジュール

● 1. 意見交換会の概要 — 今年度の方向性

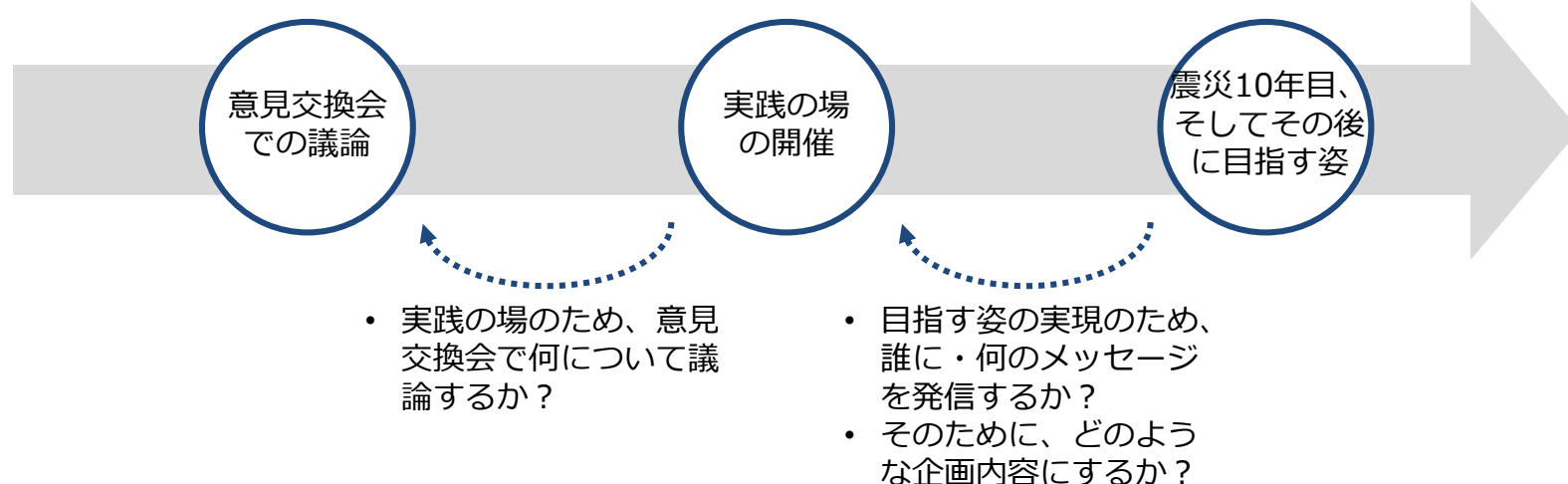
今年度は東日本大震災から10年目、そしてその後に目指す姿を念頭に置き、実践の場の企画や、そのための意見交換会での議論を組み立てていきます。

■ 意見交換会、実践の場とは



■ 今年度の方向性

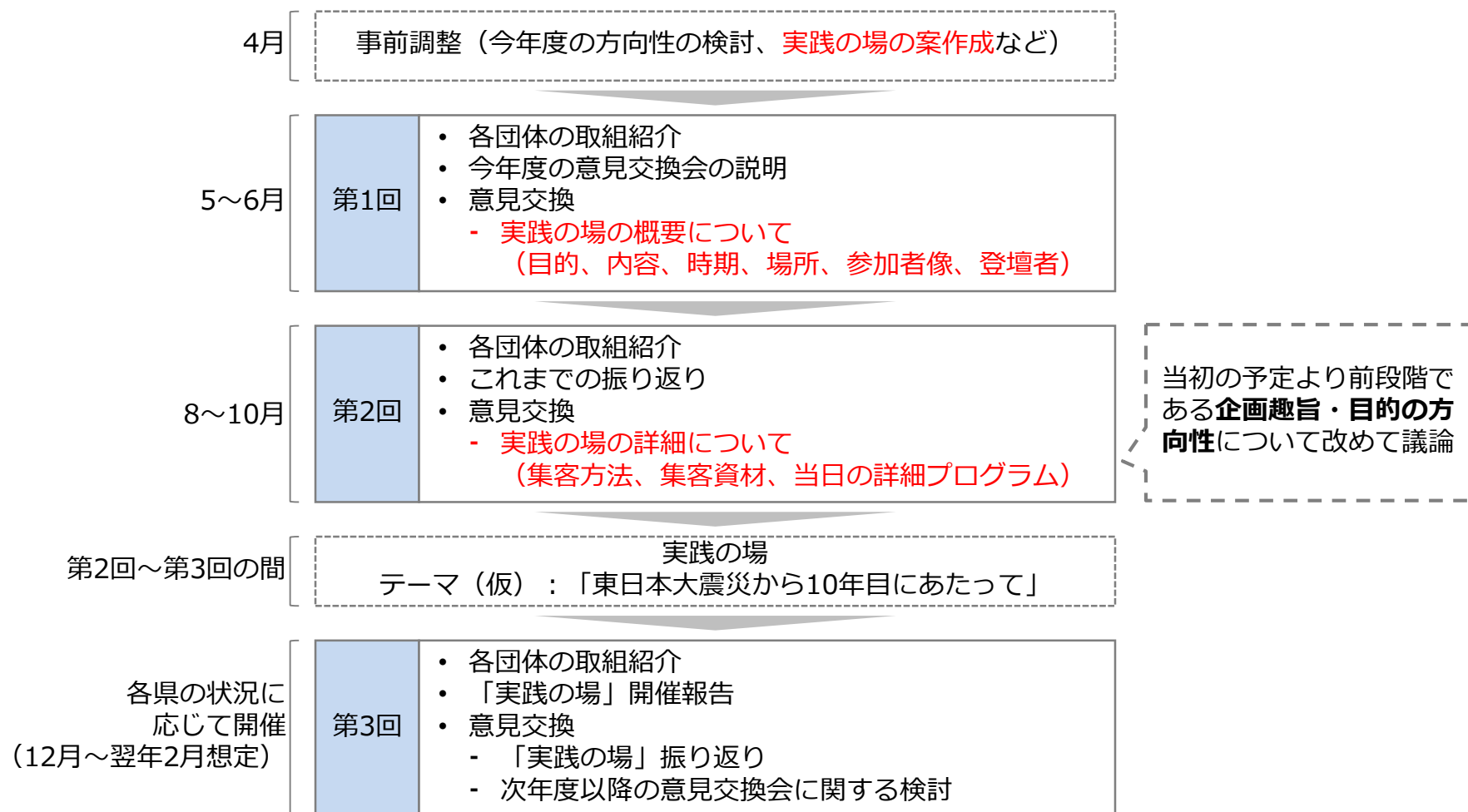
東日本大震災から10年目、そしてその後に目指す姿を念頭に置き、実践の場の企画や意見交換会での議論を組み立てる



● 1. 意見交換会の概要 — 今年度の進め方

昨年度同様、全3回の意見交換会と実践の場を開催予定です。

実践の場に向けて第2回には詳細を決定する段取りで進めておりましたが、登壇者候補の意見を踏まえ、前段階である企画趣旨・目的について改めて議論し、方向性を固めます。



● 2. 第1回意見交換会・事後調整の結果

第1回意見交換会および事後調整時に挙げたご意見をもとに、以下の通り企画へ反映いたしました。

	企画案（7/20時点版）	副代表団体からの意見・評価	企画へ反映
目的	沿岸部のインフルエンサーと、過去に岩手につながりのあった参加者が様々なテーマについて対話することで、つながりを改めて強化すること	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 参加者・登壇者の双方にとって、メリットがあるイベントにしたい ✓ 今後に向けた取組のアイディア創出と新たなつながりの発見も加えた方が良い 	対話・つながりの強化に留まらず、登壇者・参加者にとってメリットが強まるように、「 新しいつながり、新しい取組のアイディアの創出 」までを目的とする
沿岸部の団体（登壇者）	沿岸部の団体で、県内外に幅広い関わりを有す方	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「外部とのつながりを強化したい」「一緒に何かを取り組みたい」と考えている方が望ましい 	登壇のメリットを強く感じてもらうため、また、アウトプットの実現性を高めるため、 外部との連携を希望している団体にフォーカスする
参加者像	岩手と何等かの関わりを有す方（ボランティア参加者、学生、岩手出身者など幅広く）	<ul style="list-style-type: none"> ✓ より参加者像を具体化すべき ✓ 議題テーマや復興活動に関心があり、主体的に参加したいと思う方が望ましい ✓ 学生ありきで考えないでほしい 	メイン・サブを分けて具体化する 【メインターゲット】 登壇者との関わりがある方 【サブターゲット】 （これまで直接のつながりはなかったが） 議論テーマや復興に関心がある方
実施内容	現地訪問＋ツール（案A） または ワークショップ＋ツール（案B）	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 案Aは現地訪問が重要なため、新型コロナウイルスの影響を考慮してリモートを組み合わせることは難しいのではないかと ✓ 現状・課題に対して議論できる点においては案Bがより良い 	以下の理由から 案B（会場は1つ）とする <ul style="list-style-type: none"> • 企画の良さを守りつつ、新型コロナウイルスへの対策を行いやすい • 沿岸部の複数地域を順に訪問するのではなく、1拠点に集合することで議論の時間を確保しやすい

● 3. 登壇者候補とのヒアリング結果

ヒアリングの結果を踏まえ、原案通りの過去のつながり強化（方向性①）に加え、新たなつながり創出（方向性2）が当日議論の方向性としてあり得ると考えます。尚、過去のつながり強化をテーマ設定するためには、ヒアリングでのニーズが限定的であったため、目指す状態の具体化が必要と史料します。

企画の目的	沿岸部の企業・団体を中心に、復興の取組の中でつながった関係者とともに これまでの取組を振り返り、関係を強化する。 今後の沿岸部の姿、実現に向けたアイデアを創出する。	
登壇者候補 ヒアリング	過去	<ul style="list-style-type: none">・ 復興の取組の中で新たに生まれたつながりはない・ Uターン仲間や地域の人と共に団体を立ち上げ、現在も一緒に活動している・ 過去のインターン生、ボランティアとは現在もつながりがある
	現在	<ul style="list-style-type: none">・ これまでつながりがあった関係者と必要な関係は構築できており、改めてのつながり強化への課題感はない・ 取組の中でつながった団体と連携し、新しい別の活動をしている
	今後	<ul style="list-style-type: none">・ 現在の取組において、“つながりたい”人・団体は特段思い当たらない・ 取り組んでいる・取り組みたいテーマであれば、議論＆意見交換できる

まとめ
<ul style="list-style-type: none">・ つながり強化は、事業目的を達成するための手段であり、一部の通過地点である・ 事業目的に向けて、必要に応じて既につながりの維持ができています・ 今後、新たに取組テーマにおけるつながりは必要としている

当日議論の方向性
<ul style="list-style-type: none">・ 方向性①：過去のつながり強化をテーマに議論 ※どのようなイメージ、状態を目指すかを具体化・ 方向性②：新たなつながりの創出をテーマに議論

● 4. 第2回意見交換会での検討事項 (1) 方向性①における詳細検討

企画目的を「過去のつながり強化」とする際、具体的にどのような状態なのか、その先に何をを目指すのかを、沿岸団体・参加者の観点でそれぞれ整理し、認識を合わせる必要があると考えます。
企画内容の詳細化に向けて、ご意見ください。

	つながり強化の定義 (当初)	企画詳細化にあたっての 検討事項	当初案における具体例
沿岸団体	<ul style="list-style-type: none">過去に関りがあったインターンやボランティア生、応援職員と疎遠になっているためつながりを結び直す外部とのつながりを強化する、一緒に何かに取り組む	<ul style="list-style-type: none">つながり強化とは、どのような状態かつながりを強化し、その先に何をを目指すのか	<ul style="list-style-type: none">飲食店で、地域外ファンに継続的にお店に来て食べてもらう継続的に来てもらい、地域の賑わいを創出する地域産品の地域外での販売促進に協力してもらう
参加者 (復興支援で過去に関わりのあった方など)	<ul style="list-style-type: none">岩手の復興状況や、現在の活動状況を知り、岩手にもう一度関わりたいと思ってもらう (何かの取組に参加する、旅行に行く、産品を買う、周りに進める等)	<ul style="list-style-type: none">つながりを結び直した結果、どのような状態を想定しているか参加者目線で、つながりを結び直すメリットは何か	<ul style="list-style-type: none">定期的に、岩手に訪れたいと思っている岩手への愛着が強くなり、岩手の地場産品購入、周りへもPRする地域貢献により満足感が得られる

● 4. 第2回意見交換会での検討事項 (2) 方向性②のアイディア・検討

現時点での地域課題として「ワーケーション等の時流を捉えた関係人口増加による賑わい創出」「次世代の担い手育成」「直近の労働力不足の解消」があり、これらの解決策の模索、それを実現するために必要な「つながり」を論点として、意見交換することが実践の場の案となると考えます。

	団体A	団体B	団体C
現在・今後の重点取組	更なる町の賑わい創出	若年層の居場所づくり 自発的な取組のサポート	労働力不足解消 稼ぐ力となる新たな商品の開発
具体的な取組	<ul style="list-style-type: none"> ワーケーション環境の整備 ワーケーション促進のためのPR・イベント企画・域外企業への勧奨 	<ul style="list-style-type: none"> 高校生向けの放課後居場所づくり 地域とのつながり・新たな取組推進のためのサポート 	<ul style="list-style-type: none"> 映像解析を用いた缶詰作業の自動化研究 自社ブランド製品のラインアップ強化
企業・団体・人とつながりを軸とした議論テーマ案			
実践の場での論点	<ul style="list-style-type: none"> どのように解決、実現するか。 解決、実現に向けて、どのような「つながり」が必要か。 その「つながり」はどのように作り出すか。どのように推進するか。どのような仕掛けが必要か。 		

● 4. 第2回意見交換会での検討事項 (3) 企画の方向性

企画の詳細化に向けて、当日の議論の方向性について「①過去のつながり強化」、「②未来視点での新たなつながり創出」のいずれかもしくは両方を含めるかについて、ご意見ください。

企画の方向性	議題 メインテーマ案	議題 サブテーマ案	論点	想定されるアウトプット
方向性① 関係の強化	これまでのつながり強化による復興の推進	疎遠になった関係人口との強化 岩手と外部の新しい関わり方	<ul style="list-style-type: none"> 課題整理、どのように解決、実現するか 解決、実現に向けて、「過去のつながり」の強み、生かし方は何か 過去のつながりがあった人・団体へ何を訴求し、どのような仕掛けが必要か 	<p>関係人口を継続的に維持するための仕掛け作り、メリットのPR</p> <p>支援を受ける立場から、自走した活動への協働の創出仕掛けづくり</p>
And/or				
方向性② 新たなつながり	新たなつながりの創出による今後の沿岸部の創造	関係人口増加による賑わい創出 労働力不足解消 次世代の担い手育成	<ul style="list-style-type: none"> どのように解決、実現するか 解決、実現に向けて、どのような「新たなつながり」が必要か その「つながり」はどのように作り出すか、どのように推進するか、どのような仕掛けが必要か 	<p>官民連携して、地域資源・各団体の強みを生かしたイベント企画、呼び込み</p> <p>地域全体でのリソース、強みを活用した、仕掛け作り</p> <p>地域外の団体、個人とのつながりを生み、育成プログラムへの参加呼び込み</p>

● 4. 第2回意見交換会での検討事項 (4) 当日プログラム：全体

当日プログラムの全体の構成について、ミニプレゼン、ワークショップは、登壇者に何を目的に、どのような話をしていただくは詳細を詰める必要があります。

コンテンツ	時間	概要	補足
開会挨拶	5分	岩手復興局より、復興の現状・イベント趣旨を説明	
ミニプレゼン	60分	登壇者が1名ずつ順にプレゼンテーション実施 (登壇者2～6名)	被災状況の概況と復興の取組・成果、今後の展望を発表
休憩	10分	(ワークショップに適した会場レイアウトへ変更)	
ワークショップ	90分	議論のテーマ別にグループに分かれ、ワークショップを実施 ※ファシリテーター、書記を配置するか要検討 1.各登壇者を中心に、活動内容、成果を振り返り、現在の状況・課題を共有し、今後の展望について話し合う(45分) 2.今後の沿岸部の姿に向けて何が必要か、どのような仕掛け作りをするか、アイデアを出し合う(45分) ※2.はテーマにより、議論内容が異なる想定	<ul style="list-style-type: none"> 成功したこと、うまくいかなかったことを中心に紹介 その成功・失敗の要因となるような人物発言、出来事を紹介 今後の展望を発表 参加者とアイデアを膨らます
休憩	10分	(全体会の準備)	
総括	15分	ワークショップの議論内容をとりまとめ、全体に向けて発表 (グループごとのファシリテーターもしくは登壇者2～6名×3分)	ファシリテーターもしくは登壇者にてアイデアを発表
閉会挨拶	5分	岩手復興局より挨拶	

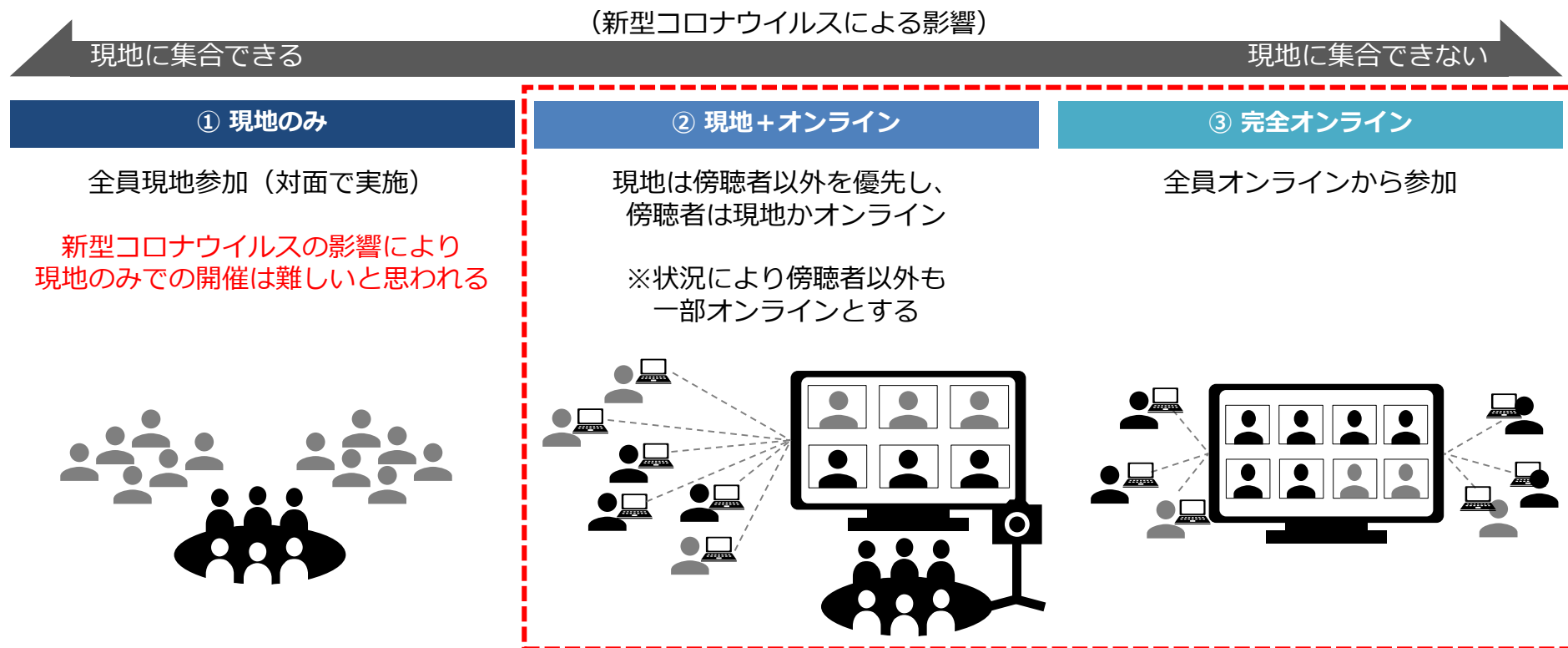
● 4. 第2回意見交換会での検討事項 (5) 開催場所の候補

開催場所は、岩手沿岸部の会場を考えており、①登壇者の活動拠点、②新型コロナウイルスの感染対策のために収容人数の二つの観点を検討します。その他、検討すべき観点、推薦会場がありましたらご意見ください。

エリア	陸前高田市	陸前高田市	陸前高田市	宮古市	宮古市	釜石市	大船渡市
開催場所	高田松原津波復興 祈念公園 国営追悼・祈念施設 (東日本大震災津 波伝承館)	陸前高田市コミュ ニティホール	陸前高田グローバ ルキャンパス	イーストピアみや こ	宮古市民文化会館	釜石市民ホール	大船渡市市民交流 館 カメラアホール多 目的ホール
最寄り駅	奇跡の一本松駅す ぐ	栃ヶ沢公園駅すぐ	脇ノ沢駅(徒歩: 約25分)	宮古駅すぐ	磯鶏駅(徒歩:5分)	釜石駅(タクシー5 分)	三陸鉄道 リアス線 盛駅(徒歩:1分)
収容人数	不明	ホール: 330名 大会議室: 130名 中会議室: 70名	30名	多目的ホール: 180名	中ホール: 362名	ホールB: 200名	多目的ホール: 300名
費用	不明	ホール: 15,600円 大会議室: 7,200 円 中会議室: 3,600 円 ※9時~21時/日	4,600円 ※9時~21時/日	・1,220円/時 (9~17時) ・1,830円/時 (17~21時半)	7,700円 ※9時-17時/日 ※冷房使用料: 770円/時	11,500円 9:00~22:00/日 ※その他: 付属設 備等料金発生	1,300円/時 ・冷房基本使用料 の20% ・ステージ用照明 基本使用料の30% ・各部屋の暖房基 本使用料の20%
補足	・セミナールーム 有 ・東日本大震災の 記憶と教訓の後世 への伝承、復興に 関する情報発信な どの利用に限る			平成31年度に利用			令和元年度に利用

● 4. 第2回意見交換会での検討事項 (6) 開催形式

開催形式は新型コロナウイルスの影響度合いに応じて3パターンを検討しておりました。収束の目途が立っていないことから、10月末時点の国・県の方針に従い、②または③で決定いたします。



運営や集客の変更に1か月以上の時間を確保できるよう、
10月末時点で、新型コロナウイルス対策に関する
国・岩手県の方針を踏まえて②または③の判断を行う

※その後、新型コロナウイルスの感染拡大等の状況に応じて
②→③は可、③→②は不可とする

● 4. 第2回意見交換会での検討事項 (7) 開催後の継続・発展の案

今回の実践の場を通じて、参加者等や地域にどのような影響・変化を与えられるでしょうか？
また、より良い取組とするために必要な要素もあればご意見ください。

今回の実践の場を通じて
参加者等や地域に対して
どのような影響・変化を与えられるか？

- ✓ 参加者等がどのような気づきを得られるか
- ✓ 参加者等のどのような行動に繋がられるか
- ✓ どのような連携・取組を創出できるか
- ✓ 上記の結果、地域にはどのような影響を与えられるか

時間等の制約により
今回の実践の場には盛り込めていないが、
取組の改善に必要な要素は他にないか？
(どうすれば継続・発展できるか？)

- ✓ 参加者等への訴求力をより高めるために…
- ✓ 当日に参加者等の意見をより引き出すために…
- ✓ 当日出た意見を確実にアクションに繋げるために…
- ✓ メインで議論する方と傍聴者の両者にとって有意義な企画とするために…

● 4. 第2回意見交換会での検討事項 (8) 今後の協議会への期待・要望

復興庁内部では、次年度以降（第2期復興・創生期間）の協議会は、「現在進行形の課題の解決に引き続き取り組む」「蓄積した知見・ノウハウの普及展開を図る」の2点が注力ポイントになると考えています。

■ 次年度以降の協議会に関する考え方

「復興・創生期間」後における 東日本大震災からの 復興の基本方針 (令和元年12月20日閣議決定)	【「新しい東北」の創造 - 今後の課題 - 】 <ul style="list-style-type: none">蓄積したノウハウの普及・展開を図り、被災地において地域課題に取り組む主体が、地方創生の施策の活用等により持続可能な活動を行うことができる環境整備が重要である	<p>現在進行形の 課題の解決に 引き続き取り組む</p> <p>※地方創生との 連携も強化</p> <p>蓄積した 知見・ノウハウの 普及展開を図る</p>
復興庁設置法等の一部を 改正する法律 (令和2年法律第46号) [附則第三条]	<ul style="list-style-type: none">復興の進捗状況が被災地域ごとに異なること等に鑑み、復興が進展している地域における取組に係る情報を復興の途上にある地域へ提供するなど、東日本大震災からの復興に関する施策の実施を通じて得られた行政の内外の知見を活用するものとする	
令和3年度以降の 復興の取組について (令和2年7月17日 復興推進会議決定) [今後の取組]	【地震・津波被災地域】 <ul style="list-style-type: none">心のケア等の被災者支援を始めとする残された事業に全力を挙げて取り組む ～ とともに、地方創生の施策等を活用することにより ～ 持続可能で活力ある地域社会を創り上げる取組を進める 【原子力災害被災地域】 <ul style="list-style-type: none">原子力災害被災地域の復興・再生には中長期的な対応が必要であり、～ 地震・津波被災地域と共通する事項のほか、第2期復興・創生期間においても引き続き国が前面に立って、本格的な復興・再生に取り組む	
令和3年度復興庁予算 概算要求に係る 基本的考え方 (令和2年7月21日復興庁記者発表)	<ul style="list-style-type: none">東日本大震災の記憶と教訓を後世へ継承するとともに、新しい東北の創造に向けた取組を含めたこれまで10年間の復興庁の取組を通じて蓄積されたノウハウについて情報を発信し、政府部内を含め被災地内外への普及展開を推進する	

● 4. 第2回意見交換会での検討事項 (8) 今後の協議会への期待・要望

前述の注力ポイント2点への対応案および協議会全体のあり方に関するアイデアや期待・要望などがあればお聞かせください。

注力ポイント	主な論点	協議会のあり方に関する主な論点						
現在進行形の課題の解決に引き続き取り組む	<ul style="list-style-type: none">どの課題に注力するのがよいか？ （地域／目的／領域／主体…）どのように解決に向けて取り組むとよいか？そのために協議会はどうあるべきか？	<table><tr><td>目的・役割</td><td><ul style="list-style-type: none">注力ポイントを踏まえて、現行の目的・役割をどのように見直すとよいか？</td></tr><tr><td>事業内容</td><td><ul style="list-style-type: none">注力ポイントを踏まえて、現行の事業のうちどこに重点を置くか？新規に追加する／廃止するとよい事業はあるか？特に、意見交換会はどうあるべきか？</td></tr><tr><td>会員</td><td><ul style="list-style-type: none">注力ポイントを踏まえて、会員の要件の見直しや追加での勧誘は必要か？注力ポイントに対して、誰と・どのような体制で事業を進めるとよいか？</td></tr></table>	目的・役割	<ul style="list-style-type: none">注力ポイントを踏まえて、現行の目的・役割をどのように見直すとよいか？	事業内容	<ul style="list-style-type: none">注力ポイントを踏まえて、現行の事業のうちどこに重点を置くか？新規に追加する／廃止するとよい事業はあるか？特に、意見交換会はどうあるべきか？	会員	<ul style="list-style-type: none">注力ポイントを踏まえて、会員の要件の見直しや追加での勧誘は必要か？注力ポイントに対して、誰と・どのような体制で事業を進めるとよいか？
目的・役割	<ul style="list-style-type: none">注力ポイントを踏まえて、現行の目的・役割をどのように見直すとよいか？							
事業内容	<ul style="list-style-type: none">注力ポイントを踏まえて、現行の事業のうちどこに重点を置くか？新規に追加する／廃止するとよい事業はあるか？特に、意見交換会はどうあるべきか？							
会員	<ul style="list-style-type: none">注力ポイントを踏まえて、会員の要件の見直しや追加での勧誘は必要か？注力ポイントに対して、誰と・どのような体制で事業を進めるとよいか？							
蓄積した知見・ノウハウの普及展開を図る	<ul style="list-style-type: none">どのような知見・ノウハウがあるか？どこ・誰に普及展開すべきか？どのように普及展開するとよいか？そのために協議会はどうあるべきか？							

● 5. 今後のスケジュール

意見交換会および実践の場は、以下のスケジュールで推進予定です。

実践の場の集客に1ヶ月間は必要なため、開催日は今年12月上旬もしくは来年1月下旬とする想定です。

